ＷＨＡＴ　ミュージアム　建築倉庫

ＷＨＡＴ ミュージアムについて

倉庫空間を現代アートや建築との出会いの場へと昇華させた倉庫ならではのミュージアムです。

現代アートや建築を中心に幅広い展覧会を開催しています。

建築倉庫

アートの島＝てんのうずアイルの寺田倉庫株式会社が運営するWHAT ミュージアムにある施設です。

建築模型を保管しながら展示する日本でも珍しいミュージアムで、建築模型が変色、変形等しないように湿度、温度、照明が管理されています。

建築家や設計事務所の建築模型を８００点以上保管し、倉庫内でその一部を展示しています。展示ぶつの中には都内にある施設、有名な建築物の貴重な模型もあり見応えがあります。

今年の春には子どもから大人まで楽しめる体験型のスペースを増設し、建築文化に親しみ、体感することができるようになりました。

エントランス「三灯小径」

エントランスには竹の特性を活かした構造で作られた「三灯小径」が展示されています。

設計：滋賀県立大学陶器ひろかず研究室

制作：滋賀県立大学陶器ひろかず研究室＋ ワークショップ参加のみなさま＋建築倉庫スタッフ

建築模型

模型を通して、平面図や文字情報だけでは捉えきれない全体的な空間のイメージを共有することができます。建築家や設計事務所により使用している素材、大きさ等が違い、建築家や設計事務所が伝えたいイメージや個性が感じ取れます。日本の建築文化を学ぶ上で非常に貴重な資料であると同時に芸術性の高いアート作品ともいえます。

長野市オリンピック記念アリーナ「エムウェーブ」の建築模型はふんだんに木材を使用しています。

繊細でありながら迫力のある佇まいを表現した高度な技術は圧巻の一言です。

体験型スペース

子どもや中高生向け、また実際にいえを建てる予定のある方向けのワークショップなど、さまざまなプログラムが用意され、建築模型を通じて幅広い層が楽しみながら体験し学べるスペースになっています。また、建築文化や建築物の歴史についても学ぶことができます。

「ＡＩＤＡ　ＢＬＯＣＫ」

建築の空間構成の把握と認識とを目的とした積み木です。

人型の模型も用意されています。積み木を並べ建物と見立て、人とフロアの高さや広さをリアルに体感できます。

「ドームをつくろう！」

色紙、のり、ホッチキスをつかい、平面から半球を作ることで立体物の構造を体感することができます。

いろんな色の用紙が用意されているので子どもも楽しめます。

出来上がった半球は持ち帰ることができます。

「起こし絵図」

平面図を描いた台紙に壁面や天井の図を貼り付け、建物の立体的な構造を再現する折り畳み式の簡易模型。

茶室などの小さな空間のような複雑な建物の再現に適した図法です。組み立てた後は再び折りたたんで持ち運ぶことができるので、江戸時代には起こし絵図を参考に有名な茶室の写しが各地に建てられたと言われています。

「模型で考える土地から間取りまで」

これからいえづくりをはじめる人向けに、土地の長所を生かした住宅配置や部屋の間取り、家具のレイアウトなどの実践的な視点で模型を使いながら建築家から学ぶワークショップです。

（２０２５年１０月から１２月まで全４回）

ＷＨＡＴ ミュージアム

住所：東京都品川区東品がわ２丁目６の１０　寺田倉庫Ｇ号

現在開催中の展覧会

「Ｒｅｂｏｒｎ―いのちを織りなすアーティストたち―」展

本展では、日本文化の根底に流れる「自然との共生」と「いのちの行方」をテーマに、

現代アーティスト６人による約６７点を紹介しています。

会期：２０２５年４月２６日（土）～ ２０２５年７月６日（日）

開館時間：１１：００～１８：００（最終入館１７：００）

：月曜休館(月曜日が祝日の場合は月曜日を開館し翌日休館)

入場料：

【展覧会】一般１，５００円、大学生／専門学生８００円、高校生以下無料

【建築倉庫】一般９００円、大学生／専門学生７００円、中高生５００円、小学生以下無料

【展覧会＋建築倉庫】一般２，０００円、大学生／専門学生１，３００円、中高生５００円

 ※ 区民割…品川区・港区在住のかたは、展覧会チケットおよび展覧会＋建築倉庫のセットチケットが１００円びきになります。

取材／編集：波木・後藤・片桐